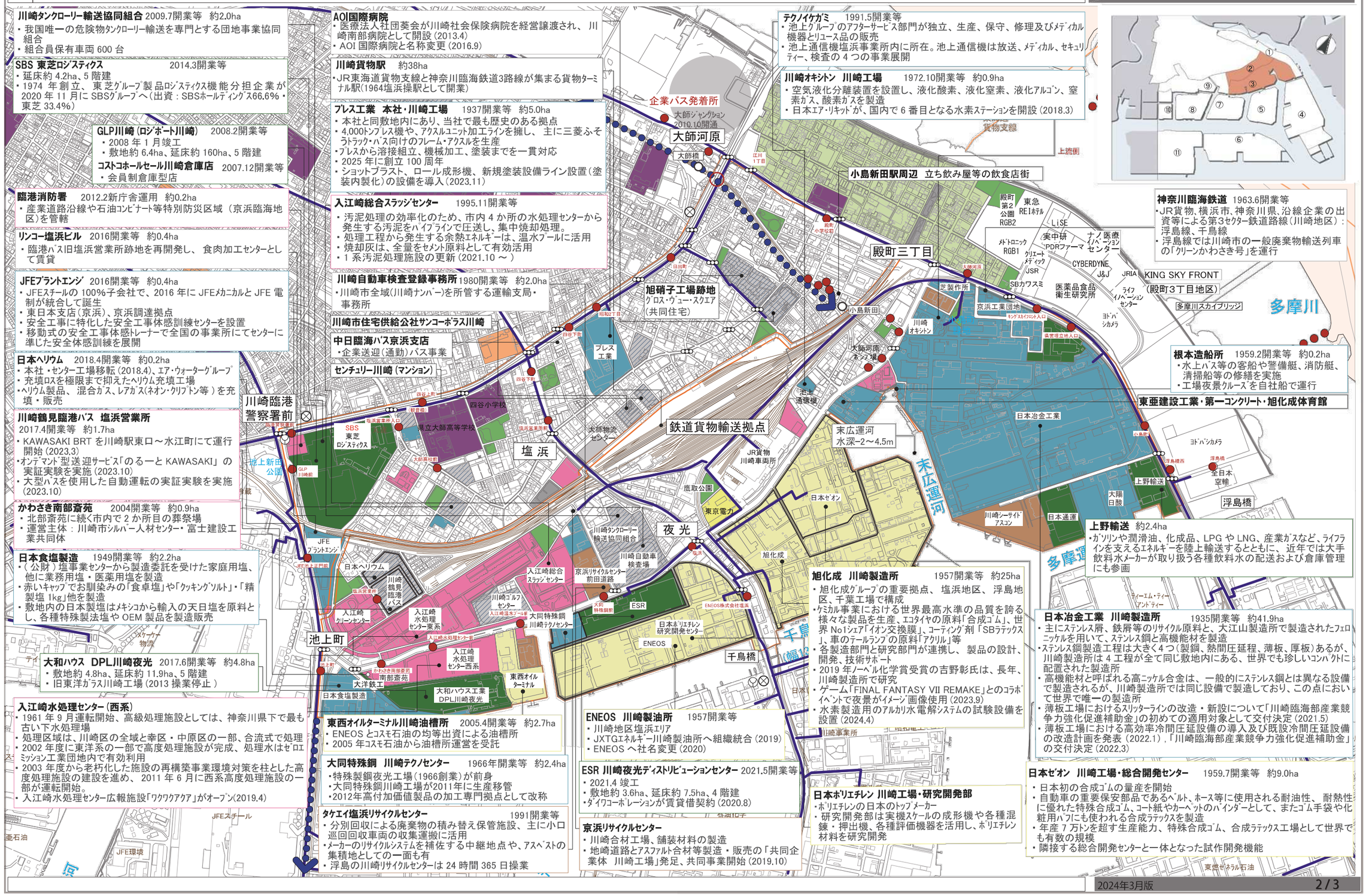
塩浜西地区 塩浜東地区 2/3

凡例
- 市域
- 対象地区範囲
- バス停
- 鉄道駅
- 工業用水道
- 警察署
- 消防署
- 製造（石油・石油化学）
- 製造（石油・石油化学以外）
- リサイクル
- 公共用地
- 物流
- エネルギー
- その他
- 公園等
- 研究開発

SCALE 1/12000　0 100 300 500m



川崎タンクローリー輸送協同組合 2009.7開業等　約2.0ha
- 我国唯一の危険物タンクローリー輸送を専門とする団地事業協同組合
- 組合員保有車両 600 台

SBS 東芝ロジスティクス 2014.3開業等
- 延床約 4.2ha、5 階建
- 1974 年創立、東芝グループ製品ロジスティクス機能分担企業が 2020 年 11 月に SBSグループへ（出資：SBSホールディングス66.6%・東芝 33.4%）

GLP川崎（ロジポート川崎） 2008.2開業等
- 2008 年 1 月竣工
- 敷地約 6.4ha、延床約 160ha、5 階建

コストコホールセール川崎倉庫店 2007.12開業等
- 会員制倉庫型店

臨港消防署 2012.2新庁舎運用　約0.2ha
- 産業道路沿線や石油コンビナート等特別防災区域（京浜臨海地区）を管轄

リンコー塩浜ビル 2016開業等　約0.4ha
- 臨港バス旧塩浜営業所跡地を再開発し、食肉加工センターとして賃貸

JFEプラントエンジ 2016開業等　約0.4ha
- JFEスチールの 100%子会社で、2016 年に JFEメカニカルと JFE 電制が統合して誕生
- 東日本支店（京浜）、京浜調達拠点
- 安全工事に特化した安全工事体感訓練センターを設置
- 移動式の安全工事体感トレーナーで全国の事業所にてセンターに準じた安全体感訓練を展開

日本ヘリウム 2018.4開業等　約0.2ha
- 本社・センター工場移転（2018.4）、エア・ウォーターグループ
- 充填ロスを極限まで抑えたヘリウム充填工場
- ヘリウム製品、混合ガス、レアガス（ネオン・クリプトン等）を充填・販売

川崎鶴見臨港バス 塩浜営業所
2017.4開業等　約1.7ha
- KAWASAKI BRT を川崎駅東口〜水江町にて運行開始（2023.3）
- オンデマンド型送迎サービス「のるーと KAWASAKI」の実証実験を実施（2023.10）
- 大型バスを使用した自動運転の実証実験を実施（2023.10）

かわさき南部斎苑 2004開業等　約0.9ha
- 北部斎苑に続く市内で 2 か所目の葬祭場
- 運営主体：川崎市シルバー人材センター・富士建設工業共同体

日本食塩製造 1949開業等　約2.2ha
- （公財）塩事業センターから製造委託を受けた家庭用塩、他に業務用塩・医薬用塩を製造
- 赤いキャップでお馴染みの「食卓塩」や「クッキングソルト」・「精製塩 1kg」他を製造
- 敷地内の日本製塩はメキシコから輸入の天日塩を原料とし、各種特殊製法塩や OEM 製品を製造販売

大和ハウス DPL川崎夜光 2017.6開業等　約4.8ha
- 敷地約 4.8ha、延床約 11.9ha、5 階建
- 旧東洋ガラス川崎工場（2013 操業停止）

入江崎水処理センター（西系）
- 1961 年 9 月運転開始、高級処理施設としては、神奈川県下で最も古い下水処理場
- 処理区域は、川崎区の全域と幸区・中原区の一部、合流式で処理
- 2002 年度に東洋系の一部で高度処理施設が完成、処理水はゼロエミッション工業団地内で有効利用
- 2003 年度から老朽化した施設の再構築事業環境対策を柱とした高度処理施設の建設を進め、2011 年 6 月に西系高度処理施設の一部が運転開始。
- 入江崎水処理センター広報施設「ワクワクアクア」がオープン(2019.4)

AOI国際病院
- 医療法人社団葵会が川崎社会保険病院を経営譲渡され、川崎南部病院として開設（2013.4）
- AOI 国際病院と名称変更（2016.9）

川崎貨物駅 約38ha
- JR東海道貨物支線と神奈川臨海鉄道3路線が集まる貨物ターミナル駅（1964塩浜操駅として開業）

プレス工業 本社・川崎工場 1937開業等　約5.0ha
- 本社と同敷地内にあり、当社で最も歴史のある拠点
- 4,000トンプレス機や、アクスルユニット加工ラインを擁し、主に三菱ふそうトラック・バス向けのフレーム・アクスルを生産
- プレスから溶接組立、機械加工、塗装までを一貫対応
- 2025 年に創立 100 周年
- ショットブラスト、ロール成形機、新規塗装設備ライン設置（塗装内製化）の設備を導入（2023.11）

入江崎総合スラッジセンター 1995.11開業等
- 汚泥処理の効率化のため、市内 4 か所の水処理センターから発生する汚泥をパイプラインで圧送し、集中焼却処理。
- 処理工程から発生する余熱エネルギーは、温水プールに活用
- 焼却灰は、全量をセメント原料として有効活用
- 1 系汚泥処理施設の更新（2021.10 〜 ）

川崎自動車検査登録事務所 1980開業等　約2.0ha
- 川崎市全域（川崎ナンバー）を所管する運輸支局・事務所

川崎市住宅供給公社サンコーポラス川崎

中日臨海バス京浜支店
- 企業送迎（通勤）バス事業

センチュリー川崎（マンション）

東西オイルターミナル川崎油槽所 2005.4開業等　約2.7ha
- ENEOS とコスモ石油の均等出資による油槽所
- 2005 年コスモ石油から油槽所運営を受託

大同特殊鋼 川崎テクノセンター 1966年開業等　約2.4ha
- 特殊製鋼夜光工場（1966創業）が前身
- 大同特殊鋼川崎工場が2011年に生産移管
- 2012年高付加価値製品の加工専門拠点として改称

タケエイ塩浜リサイクルセンター 1991開業等
- 分別回収による廃棄物の積み替え保管施設、主に小口巡回回収車両の収集運搬に活用
- メーカーのリサイクルシステムを補佐する中継地点や、アスベストの集積地としての一面も有
- 浮島の川崎リサイクルセンターは 24 時間 365 日操業

テクノイケガミ 1991.5開業等
- 池上グループのアフターサービス部門が独立、生産、保守、修理及びメディカル機器とリユース品の販売
- 池上通信機塩浜事業所内に所在。池上通信機は放送、メディカル、セキュリティー、検査の 4 つの事業展開

川崎オキシトン 川崎工場 1972.10開業等　約0.9ha
- 空気液化分離装置を設置し、液化酸素、液化窒素、液化アルゴン、窒素ガス、酸素ガスを製造
- 日本エア・リキッドが、国内で 6 番目となる水素ステーションを開設（2018.3）

小島新田駅周辺 立ち飲み屋等の飲食店街

神奈川臨海鉄道 1963.6開業等
- JR貨物、横浜市、神奈川県、沿線企業の出資等による第3セクター鉄道路線（川崎地区）：浮島線、千鳥線
- 浮島線では川崎市の一般廃棄物輸送列車の「クリーンかわさき号」を運行

根本造船所 1959.2開業等　約0.2ha
- 水上バス等の客船や警備艇、消防艇、清掃船等の修繕を実施
- 工場夜景クルーズを自社船で運行

東亜建設工業・第一コンクリート・旭化成体育館

上野輸送 約2.4ha
- ガソリンや潤滑油、化成品、LPG や LNG、産業ガスなど、ライフラインを支えるエネルギーを陸上輸送するとともに、近年では大手飲料水メーカーが取り扱う各種飲料水の配送および倉庫管理にも参画

旭化成 川崎製造所 1957開業等　約25ha
- 旭化成グループの重要拠点、塩浜地区、浮島地区、千葉工場で構成
- ケミカル事業における世界最高水準の品質を誇る様々な製品を生産、エコタイヤの原料「合成ゴム」、世界 No1シェア「イオン交換膜」、コーティング剤「SBラテックス」、車のテールランプの原料「アクリル」等
- 各製造部門と研究部門が連携し、製品の設計、開発、技術サポート
- 2019 年ノーベル化学賞受賞の吉野彰氏は、長年、川崎製造所で研究
- ゲーム「FINAL FANTASY VII REMAKE」とのコラボイベントで夜景がイメージ画像使用（2023.9）
- 水素製造用のアルカリ水電解システムの試験設備を設置（2024.4）

ENEOS 川崎製油所 1957開業等
- 川崎地区塩浜エリア
- JXTGエネルギー川崎製油所へ組織統合（2019）
- ENEOS へ社名変更（2020）

ESR 川崎夜光ディストリビューションセンター 2021.5開業等
- 2021.4 竣工
- 敷地約 3.6ha、延床約 7.5ha、4 階建
- ダイワコーポレーションが賃貸借契約（2020.8）

京浜リサイクルセンター
- 川崎合材工場、舗装材料の製造
- 地域道路とアスファルト合材等製造・販売の「共同企業体 川崎工場」発足、共同事業開始（2019.10）

日本ポリエチレン 川崎工場・研究開発部
- ポリエチレンの日本のトップメーカー
- 研究開発部は実機スケールの成形機や各種混錬・押出機、各種評価機器を活用し、ポリエチレン材料を研究開発

日本冶金工業 川崎製造所 1935開業等　約41.9ha
- 主にステンレス屑、鉄屑等のリサイクル原料と、大江山製造所で製造されたフェロニッケルを用いて、ステンレス鋼と高機能材を製造
- ステンレス鋼製造工程は大きく4つ（製鋼、熱間圧延程、薄板、厚板）あるが、川崎製造所は 4 工程が全て同じ敷地内にある、世界でも珍しいコンパクトに配置された製造所
- 高機能材と呼ばれる高ニッケル合金は、一般的にステンレス鋼とは異なる設備で製造されるが、川崎製造所では同じ設備で製造しており、この点において世界で唯一の製造所
- 薄板工場におけるスリッターラインの改造・新設について「川崎臨海部産業競争力強化促進補助金」の初めての適用対象として交付決定（2021.5）
- 薄板工場における高効率冷間圧延設備の導入及び既設冷間圧延設備の改造計画を発表（2022.1），「川崎臨海部産業競争力強化促進補助金」の交付決定（2022.3）

日本ゼオン 川崎工場・総合開発センター 1959.7開業等　約9.0ha
- 日本初の合成ゴムの量産を開始
- 自動車の重要保安部品であるベルト、ホース等に使用される耐油性、耐熱性に優れた特殊合成ゴム、コート紙やカーペットのバインダーとして、またゴム手袋や化粧用パフにも使われる合成ラテックスを製造
- 年産 7 万トンを超す生産能力、特殊合成ゴム、合成ラテックス工場として世界でも有数の規模
- 隣接する総合開発センターと一体となった試作開発機能